

令和4年生駒市教育委員会第1回定例会会議録

1 日 時 令和4年1月28日(金) 午前9時30分～午前11時07分

2 場 所 生駒市役所 401・402 会議室

3 審査事項

- (1) 報告第1号 臨時代理につき承認を求めることについて(令和4年生駒市議会第1回(1月)臨時会提出議案の意見について)
- (2) 報告第2号 令和4年生駒市議会第1回(1月)臨時会提出議案の結果について
- (3) 議案第1号 令和4年度生駒市学校教育の目標について
- (4) 議案第2号 生駒市立小学校及び中学校教職員の管理職人事について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委員	神 澤 創
委員	坪 井 美 佐	委員	レイノルズあい
委員	伊 藤 智 子	委員	古 島 尚 弥

5 事務局職員出席者

教育こども部長	奥 田 吉 伸	生涯学習部長	八 重 史 子
教育総務課長	山 本 英 樹	教育指導課長	前 田 伸 行
学校給食センター所長	財 満 直 也	こども課長	松 田 悟
こども課指導主事	川 田 奈津子	こども課指導主事	松 本 裕 美
子育て支援総合センター所長	角 井 智 穂	生涯学習課長	清 水 紀 子
図書館長	西 野 貴 子	スポーツ振興課長	西 政 仁
教育総務課課長補佐	石 田 昌 代	教育指導課課長補佐	花 山 浩 一
教育総務課(書記)	牧 井 望	教育総務課(書記)	吉 川 優 香

7 傍聴者 2名

午前9時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告
報告なし

○日程第3 報告第1号 臨時代理につき承認を求めることについて（令和4年生駒市議会第1回（1月）臨時会提出議案の意見について）

- ・臨時代理につき承認を求めることについて（令和4年生駒市議会第1回（1月）臨時会提出議案の意見について）、松田こども課長から説明

<参照：議案書p1～3>

（質疑）

イノズ 委員：新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、保育士自身が自宅待機になることもあるかと思う。現在、人手が足りていない業務や対策があれば知りたい。

松田 課長：今回の賃金改正は、平均賃金よりも保育士の収入が低いことへの改善が1番の理由である。それに加え、コロナ禍での消毒等の業務の負担や精神的な負担も大きいことから、賃金改正により少しでも改善に繋がればという意図がある。

イノズ 委員：新型コロナウイルス感染症による現状はすぐに改善するようなものではない。今後も継続的に必要なサポートができるように取り組んでいただきたい。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第4 報告第2号 令和4年生駒市議会第1回（1月）臨時会提出議案の結果について

- ・令和4年生駒市議会第1回（1月）臨時会提出議案の結果について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p4>

（質疑） なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第5 議案第1号 令和4年度生駒市学校教育の目標について

- ・令和4年度生駒市学校教育の目標について、前田教育指導課長から説明

<参照：議案書 p 5、別冊 1、資料 1、資料 2 >

(質疑)

原井教育長：私自身としても、教育委員会としても、子どもたちの居場所づくりは特に力を入れたいと考えているので、文言に反映している。継続審議とすることも可能であるので様々な意見をいただきたい。

イノズ 委員：内容についてはこれで良いかと思う。居場所づくりをより明確にしたのも良い点である。ただ、別冊 1 の記載に気になる点が 2 点ある。1 点目は、「小学校の重点課題」から「中学校の具体的な取組」にかけて、それぞれの③に英語教育についての記載がある。この内容はこれまで継続して取り組まれていることかと思うが、数年間文言に変化がない。現在はタブレット端末が導入されており、アプリを利用した学習も行うことができると考えている。予算等の関係もあるかと思うが、もう 1 歩内容を進めても良いのではないか。具体的な文言は改めて提案するが、検討していただきたい。次に 2 点目は、1 ページ目の重点目標にある「多様性を認める柔軟性とやさしい心の育成」の項目数についてである。1 つ目の「個々人の違いや多様性の理解を深めます。」と 4 つ目の「個性を生かし、多様な人々との協働を促します。」は似た内容であるので 1 つにしても良いのではないか。横並びである「主体的に学び 21 世紀を生き抜く力の育成」と「挑戦を続けるたくましい心身の育成」が 3 項目であるので合わせた方が見やすいと感じる。こちらについても具体的な修正案は改めて提案したい。

前田 課長：英語教育でのタブレット端末の活用は検討しているところであるので、可能な内容であれば文言に入れたい。

原井教育長：実際に小学校では、海外の同じ学年の子どもたちとオンラインで交流をするという取組を来月予定している。また、ほぼ日のアースボールというタブレットと連動する地球儀を使用した国際学習も行っているところである。今後さらに ICT 機器を利用した英語教育も可能になってくると思うので、前向きに検討して文言に入れていきたい。

飯島 委員：まず資料 2 について、非常に丁寧にまとめていただいているので、特に本市にとって重点的な部分は別冊 1 の目標にも具体的に盛り込んではどうか。また、この目標は教育関係者のみならず、父兄の皆様と学校教育の方向性を共有するものでもあると認識している。そのため、誰が読んでも分かる表現にしていいただきたい。例えば、OJT という言葉は ALT に比べ、まだ一般的な認知度が低いように思う。日本語の表記の後に括弧で英語の表記を入れる方が分かりやすいように思う。また、別冊 1 の「令和 4 年度「生駒市学校教育の目標」について」において、3 段落目に「一昨年度」や「昨年度」という表記があるが、今後学習指導要領に改正があった際に、いつの新学習指導要領かが分からなくなるので、何年度かを明確に示した方が分かりやすいと思う。また、3 段落目に「資質・能力を一体的に育成

するため」とあるが、一体的にという表現は一般的に幼稚園教育要領や保育所保育指針で使われるものかと思う。小学校や中学校では総合やバランスといった言葉を使用することが多いため、修正してはどうか。次に、文章的に分かりにくい部分について、修正の検討をお願いしたい箇所が3つある。まず1点目、「小学校の具体的な取組」の①について、「タブレット端末やその他のツールを有効活用し」とあるが、ICT機器だけではなく、ソフトウェアの活用も文言に必要ではないか。また、「授業の研究と実践（改善）を推進する」とあるが、内容が読み取りづらいので、分かりやすい書き方にした方が良いのではないか。次に2点目、②の「よりよい学校と地域づくり」について、「よりよい」の修飾関係を明確にした方が分かりやすいと感じる。最後に3点目、「小学校の具体的な取組」の⑥や、「中学校の具体的な取組」の⑥と⑦について、「いじめ防止等の取組を推進する」や「読書離れの改善に取り組む」という文言は、現在の問題に対処するという書き方かと思う。「読書の魅力を子どもたちに伝える」というような前向きな言葉の方が、目標としてより良いのではないか。今回指摘したものは次回定例会にて具体的な修正案を提案したら良いのか。

原井教育長：委員の皆様には、本日ご指摘いただいた部分の具体的な文言の修正案を次回の定例会までにご提出いただきたい。それを基に事務局で修正版を作成し、次回の定例会にて再び協議したいと考えている。文言や表現についてのみならず根本的な内容についても意見があれば伺いたい。

伊藤委員：資料2の5ページの(3)「問題解決に向けた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の充実」について、生駒市の結果を見ると非常に難しい問題であると同時にしっかり取り組まなければならないことであると感じる。「生駒市学校教育の目標」の内容は、各学校の目標の中にも組み込まれており、先生たちの間で普及されているように思っていたが、アクティブ・ラーニングの結果は改善されていないように見受けられる。実際の学校現場ではどの程度の問題意識があるのか。

原井教育長：学校現場の声を今から文章に入れるのは難しいかと思う。教育指導課長からお話しいただくので、それを基に伊藤委員から修正案を提案いただきたい。

伊藤委員：質問の意図は、文言の修正をしたいということではない。目標の文言を修正しても、現場に変化がなければ意味がないと思うので、現場の認識について知っておきたいということである。

前田課長：学校の声聞く手立てとしては、毎年行われている学校訪問にて、学校の目標と教育委員会の目標を調整できれば良いかと思う。また、教科ごとに指導主事が小中連携会議を定期的に行っているため、現場の取組の課題に関しては、その際に意見交流をしている。また、エバンジェリストを集めてICTの研修を行っているため、その中でも先生方の声を聞くことがで

きている。近年は特にICTの発展により、各部の先生方と指導主事とが集まって話し合える機会が増えたと感じている。今後このような協議は、オンラインを活用してさらに反映していくことが可能かと思う。

原井教育長：ご指摘の課題については、学校現場にいた頃から重く受け止めていた。このデータの基となっている全国学力・学習状況調査は、それぞれの学校で分析、共有、対策まで行っている。今議論している生駒市学校教育の目標は、その前の段階である。アクティブ・ラーニングのような課題を踏まえて、生駒市学校教育の目標の内容を審議していただきたいと考えている。実際、アクティブ・ラーニングの課題については、小学校及び中学校の重点施策①の「主体的・対話的で深い学びの実現」に関わっていると思う。この目標を基に、学校現場がどう解釈し、対応していくかは実践の段階になる。

伊藤委員：なぜ改善しなかったのかのフィードバックが必要であると考えている。

原井教育長：奈良県全体の傾向であるということもあり、時間がかかることであると感じている。教員の力量を上げることや、子どもたちの授業への意識を変える必要があるかと思う。どのような対策を取るかは今後の大きな課題である。この背景を基にどのような目標にするかを考えていただきたい。

神澤委員：子どもの居場所づくりを明記していただきありがたい。私はこの目標を子どもたちにどう伝えるかが重要であると感じている。そのための工夫として小学校及び中学校の具体的な取組の⑥を、「不登校児童・生徒や生きづらさを抱える子どもたちへの支援」というような、不登校やいじめに限定しない表現にしてはどうか。目には見えにくいですが、特に中学生は生きづらさを感じている子どもが多いかと思う。生きづらさという表現はまだあまり使われていないが、分かりやすいと思う。居場所づくりに取り組むとのことであったが、それを子どもたちにどう使ってもらうかも重要である。家や学校に居場所がないと感じている子どもに、それ以外の場所で安全な居場所が作れると良いと考えている。また、虐待やネグレクトによる子どもへの影響等も文言に入れることができると考えている。具体的な修正案は後日伝えるが、検討願いたい。

原井教育長：生きづらさという表現は私も必要かと思う。適応指導教室や通級指導教室を充実させることで、子どもが安心して過ごせる居場所づくりを目指したい。

神澤委員：生駒の全ての子どもたちが、全ての場所で居場所を感じられるのが望みであるが、難しいことである。発達の遅れや特性がある子どももそうでない子どもも、一緒の場所で過ごせるような学校にしていきたい。

原井教育長：そのことを文言に盛り込めると良いと思う。

前田課長：資料1について、訂正がある。先ほど、「タブレット端末の表記をタブレット型端末と変更した。」と説明したが、誤りであった。正しくは、「タブレット型端末の表記をタブレット端末と変更した。」である。

伊藤委員：昨年度も提案したが、別冊1の1ページについて、「いこまっこ＝ふるさと生駒を愛する子ども」という文言の位置が、目指す子ども像の最上位となっていることに違和感がある。保護者や地域の人子どもを愛するだと理解できるが、教育の究極の目標が故郷を愛することだけということには違和感がある。もちろんそれも目標の1つではあるが、21世紀を生き抜く力はそれ以上に重要であると思う。せめて下の3つの矢印を無くせないか。検討願いたい。

原井教育長：この目標は、学校現場に示され、これを基に校長が学校での目標を作る。学校現場では、生駒市の宝である子どもたちを家庭のみならず、学校や地域全体で育てようと考えているかと思う。「ふるさと生駒を愛する子ども」という表現は学校の教育目標でも使われており、自然に受け入れられているものだと私は感じているが、他の委員から意見があれば検討したいと思う。

飯島委員：伊藤委員のおっしゃることは理解できる。しかし、いこまっこの表現をなくしたり、記載する位置を低くすると、どの学校でも同じような内容になるかと思う。特に小中学生にとって、自分の暮らしている地域への愛着や地域の人への思いやりが、成長のベースになっているという考え方に基づき、最初の制作時にこの表現を入れた。ただ心情的に愛しているだけでなく、大人から働き掛けて子どもたちを生駒全体で育ていこうという意図が込められていたと思う。いこまっこが最上位となるのかということに関しては、さらにその上に矢印があり「生駒を愛し、21世紀を生き抜く力を身につけた、やさしくたくましい子どもの育成」が最上位となっている。そのためいこまっこは目標ではなく、目標のベースに位置していると認識している。私自身は現在違和感なく受け入れているが、他により良い案が浮かべば提案したいと思う。次回までに考えておく。

レックス委員：どちらの意見も分かる。しかし、仮に矢印をなくすことで内容が変わるかは疑問である。もし愛するという言葉が強く感じるのであれば「ふるさとを誇りに思う」等に変えることも手かと思う。私はこのいこまっこの表現を、そこにいるだけで居心地が良く、安全を感じて成長ができることと捉えており、その表現が愛するになっていると認識している。この認識が正しいければ、これは21世紀を生き抜く力よりも大切なことであると思う。何もできなくても、そこにいれば幸せだと感じることでできる居場所があるということは大切であると思う。このことを他の言葉に変えることができるのであれば、他の表現でも良いかと思う。

坪井委員：いこまっこという表現に関して、2つ意見がある。1点目は、目標を作った当初の話し合いにて、進学を目的とした学力の育成だけでは、学力は高いが生駒市に愛着を持つことなく、容易く自分が生まれ育った故郷を離れていってしまう恐れがあるという話し合いをしたことを覚えている。このいこまっこという表記には、生駒の子どもたちに故郷に帰ってきてほしいという思いが入っている。2点目は、毎年成人式を拝見し、落ち着いた素晴らしい成人式を迎えることができているのは、家庭や学校、地域から多くの愛情を注いでもらったからだと感じている。いこまっこという表現は、まちが子どもを育てるという意味合いも含まれて良い言葉であると考えている。

原井教育長：他に意見あるか。

(意見なし)

原井教育長：それでは、今回発言いただいた箇所や他に新たに気付いた点があれば、次回の定例会までに具体的な修正案を提出願いたい。それを基に改めて「生駒市学校教育の目標(案)」を作成し、次回定例会にて議論いただきたい。

審議結果 【継続審議】

○日程第6 その他

- ・令和4年2月行事予定について、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明(質疑) なし
- ・新型コロナウイルス感染症発生状況(令和3年度2学期分及び体育施設分)について、奥田教育こども部長、八重生涯学習部長から説明(質疑) なし

≪ 暫時休憩・職員及び傍聴者退室 ≫

○日程第7 議案第2号 生駒市立小学校及び中学校教職員の管理職人事について

- ・生駒市立小学校及び中学校教職員の管理職人事について、原井教育長から説明<参照：議案書p6、別紙(非公開)>
≪ 個人情報を含むため、質疑内容は非公開 ≫

審議結果 【原案のとおり可決】

○閉会宣告

午前11時07分 閉会